

ハマフエフキの種苗生産

藤本裕（仔魚飼育・中間育成）、金城武光（親魚養成と採卵）

前田訓次（餌料培養）*

本事業は昭和59、60、61年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書（昭和62年3月）に報告したので、ここでは要約のみを記す。

1. 目的および内容

当センターの生産目標である20万尾（昭和62年度）を生産するため、比較的生産に結びつく可能性の高いマガキ幼生・S型ワムシを初期餌料として使用し、安定生産を旨とした。

2. 成果の要約

1) 親魚は前年度より継続飼育している19尾（平均尾叉長 56.2 ± 3.5 cm、平均体重 3.7 ± 0.7 kg、雌雄比不明）で、産卵は前年度より40日遅れの3月30日に始まり、9日早い12月5日に終了した。

2) 産卵回数は前年度に比べ若干減少したが、総採卵数は約25%増の5.5億で、順調に採卵できた。

3) 仔魚飼育は50 m^3 水槽を延べ10面（有効水量450 m^3 ）使用し、マガキ幼生・S型ワムシを初期餌料として生産を行なったが、飼育初期の生残が前年度に比べ非常に悪く、生産できたのはわずか3面で、約2万尾（平均全長20.4～30.1mm）の生産に止まり、安定生産を旨としたにもかかわらず悪い結果となった。

4) 中間育成は海面小割生簀3面（生簀網4×4×4m）を使用し、8月から11月下旬まで行なった。

5) 約2万尾を沖出しし、約1.5万尾（平均全長67.4～78.7mm）を栽培技術開発事業に供した。生残率73.9%と比較的良好な結果となり、全長18mm以上で沖出しすれば50%以上の生残が期待できる。

3. 今後の課題

1) 良質卵の大量採卵

2) 安定且つ高生残率となる初期餌料の探索

3) 異形魚の出現対策

* : 水産試験場八重山支場